

## 式辞

今年も春が巡ってきました。春とはまさに希望の季節、そして新たな生命（いのち）が芽吹く季節です。本日ここにご来賓の方々や保護者の皆様のご臨席を仰ぎ、二三五人の新たな仲間、すなわち新たな希望そして生命（いのち）を迎え、鹿児島県立川内高等学校第八十一回入学式を挙行できますことは、私たち教職員にとってこの上ない慶びであり、厚く御礼申し上げます。川内高校は今日から、在校生も含めたこのメンバーで走り始めます。

新入生の皆さん、まずは入学おめでとう。義務教育を終え、希望すればその他の学校に進学する選択肢もある中で、本校への進学を決断してくれたことを私たち教職員は嬉しく思うとともに、皆さんを預かる責任感と使命感を新たに

しています。

さて、本校は、明治三十年、鹿児島県尋常中  
学校第一分校として開校しました。その後、戦  
災や学制改革に伴う統合などの幾多の変遷を経  
て現在の鹿児島県立川内高等学校となり、今日  
まで百二十八年、約四万人の有為な人材を世に  
送り出してきました。令和となった新しい時代  
においても、伝統に裏打ちされた爽やかで落ち  
着いた校風を継承しています。その本校で、新  
入生の皆さんが勉学や学校行事などに真摯に取  
り組み、充実した高校生活を送ることを期待し  
ます。

ところで、生成AIをはじめとする人工知能  
が急激に進化し、グローバル化が進む混沌とし  
た社会では、様々な事象が複雑さを増し、変化  
の先行きを見通すことが一層難しくなってい

ます。そのような時代を生き抜いていく皆さんに求められるのは、正解のある問題を早く正確に解いたり、定まった手順を効率的にこなしたりすることだけでなく、よりよい未来や新たな価値観の創造に向けて、自ら課題を発見し、知識や情報を活用しながら、多様な人々と協働して取り組んでいく力です。

大学入試や就職試験などに合格することが勉強のゴールではなく、その後の人生を主体的に生き抜くために自ら学び続ける力の土台を作ることが高等学校までの教育の重要な役割です。その土台となる力を育成するために、本校は全職員が一丸となって取り組んでまいります。

これからの時代を生き抜く力を生徒の皆さんがつけられるように、本校はスクールミツションを次のように定義しています。「薩摩川内市

にある歴史と伝統ある普通科高校として、グローバルな視点で物事を考える力を身につけさせ、変化の激しい未来をしなやかに生き抜く力を育み、生徒の可能性を最大限に伸ばし、他者と協働し積極的に社会貢献できる人材を育成する」というものです。

体育館前方に、本校の校訓「自律・敬愛・剛健」を掲げています。この校訓は、これからの時代を見据えて作ったスクールミッションに重なっています。

つまり、グローバルな視点で物事を考える力を身につけるには、高い目標を掲げ、自らを律し、主体的に考え行動する「自律」が求められ、変化の激しい未来をしなやかに生き抜くには、気力・体力・活力に満ち、粘り強く自己実現を目指す「剛健」が求められ、他者と協働し

積極的に社会貢献するためには、おおらかで明るく素直な心情を養い、自然と人間への愛情を基にした「敬愛」が求められるということです。

すなわち、本校の校訓「自律・敬愛・剛健」は、これからの時代を生きる若者に必要とされる力を表すキーワードそのものなのです。本校の草創期に校訓をつくった先達は、未来でも変わらずに必要とされる資質・能力を見据えていたと言っても過言ではありません。その校訓を具現化すべく、新入生のみなさんがたくましく成長することを願っています。

皆さんにお伝えしたいことが二点あります。一点目は、「自分のルーツに誇りを持つ」ということです。これは薩摩川内で生まれたかどうかだけが問題ではありません。当然、薩摩川内

で生まれ育ってきたからそのまま川内高校を指したという人はいるでしょう。しかし、中には小学校・中学校・高校のいずれかのタイミンで、様々な理由で薩摩川内に来た人もいます。座っています。理由はどうあれ、今ここに皆さんが座っているということに意味があるのです。ここに座っている全員に薩摩川内に対するルーツが今生じていると考えるてください。

皆さんはただの偶然で川内高校に入学するのではない。今後三年間の本校での学びの中で、川内高校だからできること、川内高校でしかできないことを、校内・校外の様々な活動でとんとん追求してもらいます。全国には今、国公立立合わせて約四千八百校の高校がありますが、本校でしかできない、本校生にしか感じられないことを学習・部活動・探究活動・学校行事などで極めてほしいのです。

皆さんにお伝えしたい二点目は、「人間力」の偏差値を高めて欲しいということです。「偏差値」といえば普通、「学力偏差値」ですよね。試験の平均を出して、その平均値・中間値を五十として、上位と下位にどれだけ離れた位置に自分がいるかを把握する指標です。例えば、最難関の東京大学では八十ぐらいでしょうか。

ただ、「学力偏差値」といっても、今後皆さんが気にすることになる数値は、自分の志望大学等の入試に必要な教科科目の「偏差値」で、体育や芸術、家庭科などは含まれていない、ごく一部の力しか表していないということ忘れてはなりません。これらの数値も大事な「人間力」の一部ではあるのですが、これだけでその人の価値が全て決まるわけではない。私がいう「人間力偏差値」とは、学校で教えられる全ての教科の力は

大前提として、それ以外に社会の常識、礼儀、誠実さ、忍耐力、決断力、交渉力、積極性、協調性、包容力、共感力、優しさ、思いやり、コミュニケーション能力など、人間が社会生活を営む上で必要となる様々な能力を合わせたトータルとしての人間の力です。

例えば学力偏差値が七十五あったとしても、他の「人間力」の数々の項目が四十しかなければ、トータルとしての「人間力偏差値」は軽く五十を切ってしまうということです。逆に「学力偏差値」が平均値五十ぐらいでも、その他の項目が七十五ぐらいあれば、トータルとしての「人間力偏差値」は七十を超えてくる。この「人間力偏差値」を本校の教育活動をはじめ、ボランティアや自主的な活動などの学校外の諸活動でも積極的に高めるに高めてほしいのです。皆さんが人間的に魅力的な人に成長することを期待しています。

保護者の皆様、お子様のご入学を心から歓迎いたします。今、皆様の心の中に浮かんでいるお子様は、いつ頃のお子様でしょうか。生まれただでまだ首も据わっていない頃、タオルにくるんで恐る恐るお湯の中に浸けていたあの頃でしようか。夜中に高熱を出し、泣きじゃくる我が子をどうすることもできず、ただ抱っこしてあやしていたあの頃でしようか。それとも、思春期になり、生意気に文句を言って、親である自分に初めて反抗してきたあの頃でしようか。そんなお子様がこんなにも大きく成長しました。そして、この川内高校で、さらに大きく成長します。

この子どもたちが生きていく時代は、「人生百年時代」、「AIの時代」、「超高齢化社会」、そして「二十二世紀」。これまで誰も経

験したことの無い、さらにはモデルとすべき生き方もない、そんな社会です。そこに私たち親や教師は既に不在であり、助けてあげることができません。だからこそ本校は、「グローバルな視点で物事を考える力を身につけさせ、変化の激しい未来をしなやかに生き抜く力を育み、他者と協働し積極的に社会貢献できる人材を育成する」ことをスクールミッションに掲げ、教育活動の充実・改善を図って参ります。「川内高校で学んでよかった」と実感していただけるよう全力で支援します。生徒たちには、「大きな子ども」ではなく、「小さな大人」として接して参ります。

そのためにも学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、連携を密にしていくことが重要であると考えます。保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針について御理解いただき、御協

力をお願いいたします。

終わりに、新入生のみなさんの活躍を心から期待するとともに、本校の教育活動に対し、日頃から温かい御理解と御支援を頂いているすべての皆様に感謝を申し上げ、式辞といたします。

令和八年四月八日

鹿児島県立川内高等学校

校長 大倉秀心